

学生の教育実践力を高めるための学部・附属連携授業の構築

～教育実習前後の3年生の授業を中心に～

大森 洋子^{*1}・白石 敏行^{*2}・川崎 徳子^{*2}・中島 寿子^{*2}・吉鶴 修^{*1}
高橋 千恵^{*1}・中原 早苗^{*1}・尾川 真子^{*1}・高田 和宜^{*1}・松村 佳枝^{*1}

Establishment of faculty-affiliated collaborative classes to enhance students' practical educational skills:
Focusing on classes for third-year students before and after educational practice

OMORI Yoko^{*1}, SHIRAIISHI Toshiyuki^{*2}, KAWASAKI Tokuko^{*2}, NAKASHIMA Hisako^{*2}, YOSHITSURU Osamu^{*1},
TAKAHASHI Chic^{*1}, NAKAHARA Sanae^{*1}, OGAWA Mako^{*1}, TAKATA Kazuyoshi^{*1}, MATSUMURA Kae^{*1}
(Received May 31, 2022)

キーワード：幼児教育、教育実践力、教育実習前後授業構築

はじめに

幼児教育コースでは、学生が保育現場を知る方法の一つとして、保育観察や保育参加を実施している。しかし、コロナ禍での観察や参加は実現が難しく、令和2年度には、附属幼稚園教員が画像や動画、保育実践記録等を活用したリモート授業を数回実施することに代えることとなった。この附属幼稚園教員によるリモート授業の効果は予想以上に大きく、コロナ禍に限らず、学部と附属幼稚園との距離が離れていて頻繁な往来が困難な状況において、有効な授業方法として多くの可能性を含むことが分かった。また、その効果をあげるには、附属幼稚園教員が事前に意図に沿った画像や動画等を用意して、学部と連携しながら意図的計画的に学びの内容を構成していくことが重要であると確認できた(大森他, 2021)。

これらの背景から、本研究では、学生の教育実践力を高めるために、学部と附属が連携・共同して授業を構築していくことを考える。具体的には、教育実習対象学年である3年生の授業を中心に、教育実習前及び教育実習後の授業について、附属幼稚園教員の授業への参画の仕方や学部と附属との連携の在り方などを探り、学生の教育実践力を高めるために効果的な学部・附属連携授業について考察することにした。

1. 目的と方法

1-1 研究の目的

本研究の目的は、学部と附属とが連携・共同して授業を構築して、学生の教育実践力を高めることである。今回は、教育実習対象学年である3年生の教育実習前後の授業を中心に考える。対象となる授業は、「幼児教育基礎実習」「教育実習事後指導」「保育実践論」である。これらの授業内容を学部と附属幼稚園とが共有するとともに、授業に附属幼稚園教員が参画することで、学生の教育実践力を高める授業について考える。

1-2 研究方法

(1) 次の方法で学部と附属とが連携・共同し、学生の保育参加や附属幼稚園教員の授業への参画、リモート授業等を取り入れた授業を行う。主な授業の構成は表1のとおりである
① 3年生9・10月に実施する附属幼稚園での教育実習が有意義なものとなるために、3年前期「幼児教育基礎実習」を中心に附属幼稚園での保育参加を導入し、参加内容や経験内容をもとに学部授業を構想する。また、適宜附属幼稚園教員が学部授業へ参画する。

*1 山口大学教育学部附属幼稚園 *2 山口大学教育学部幼児教育コース

②教育実習後の3年後期は、教育実習を終えた学生が自らの課題を追求しつつさらに学びを深め、教育実践力を高めていくために、教育実習の振り返りを中心とした授業を行い（「教育実習事後指導（1）」・新設「保育実践論」）、そこに適宜附属幼稚園教員が参画する。また、後期授業の成果を生かしたまとめの場として、附属幼稚園で保育実践を行う（「教育実習事後指導（2）」）。

③コロナ禍の対応及び学部と附属幼稚園との距離を考慮して、リモート授業を積極的に取り入れる。リモート授業に関しては、令和2年度に実施して明らかになった利点や留意点などを生かして、より学生の学びを深める工夫をする。

表1 学部と附属が連携・共同しながら実施した主な3年生の授業内容

開設期等	授業科目名等	主な連携・共同授業内容
3年前期	幼児教育基礎実習 (学部・附属幼稚園)	学部授業で学習した幼児とかかわるための基本的事項を踏まえて、附属幼稚園で保育参加をする。保育参加では環境構成・ミーティングまで体験し、保育の実際や学級の実態等を知り、教育実習につなげる。保育参加レポートは、学部・附属で共有し、保育参加の振り返りや次の保育参加の指導に活用する。
9月中旬～ 10月中旬	教育実習 (附属幼稚園)	学部教員は一人保育を中心に実習を参観し、実習生の協議会にも参加する。学生の保育動画や指導案、実習日録等は後期の事後指導や授業にも活用する。
10/27,11/ 5,11/17	教育実習事後指導 (1) (学部)	教育実習「振り返りシート」や実習日録を活用して、幼児理解や援助等について検討する。教育実習事後指導(2)につながる教材研究の指導も行う。
3年後期	保育実践論 (学部) 令和3年度新設	基本実習の体験を保育案、実習日録、保育動画等をもとに振り返り、今後保育者として身に付けたい資質・能力について確認する。教育実習事後指導(2)で使用する教材作成と模擬保育も実施する。附属幼稚園教員が実習中の出来事も踏まえて「保育の基本」となる事項について再確認する。
2/4,2/7, 2/8	教育実習事後指導 (2) (附属幼稚園)	作成した教材を用いて学生が実習配属クラスで保育実践を行い、その内容について附属幼稚園教員と振り返る（⇒コロナにより中止）。

(2) ①②③の成果について、授業担当者の振り返り、学生の授業における振り返り及び学生へのアンケート調査をもとに考察する。アンケート調査は、【教育実習前】【教育実習終了後】【教育実習事後指導終了後】の3回にわたって、次の目的で実施した。質問項目は表2、表3のとおりである。

【教育実習前】教育実習で学びたいこと（身につけたいこと、深く考えたいこと、力をつけたいこと）や期待することについての調査。

【教育実習終了後】教育実習以前に受講した授業（「幼児教育基礎実習」等）についての授業改善ならびに教育実習で学んだこと（身につけたこと、深く考えたこと、力をつけたこと）についての調査。

【教育実習事後指導終了後】教育実習後に受講した授業等（「教育実習事後指導」「保育実践論」等）についての授業改善。

表2 学生に実施したアンケートの質問項目

教育実習前	問1 今回の教育実習で学びたいこと（身につけたいこと、深く考えたいこと、力をつけたいこと）は何ですか？（上位5つを選択） 問2 今回の教育実習に期待することは何ですか？ 自由に記述してください。
教育実習 終了後	問1 今回の教育実習において、2回の保育参加やその後のリモートでの振り返りなどのようなことが活かされたと思いますか？ 問2 今回の教育実習において、学部での「幼児教育基礎実習」の授業（附属幼稚園での保育参観等を除く）はどのような内容が活かされたと思いますか？ 問3 今回の教育実習において、学部での「幼児教育基礎実習」以外の授業のどのような内容が活かされたと思いますか？ 最も活かされた授業科目名と内容について回答してください。 問4 今回の教育実習を終えて、今後の学部での授業では、どのようなことを学びたいと思いますか？ 問5 今回の教育実習で学んだこと（身につけたこと、深く考えたこと、力をつけたこと）は何ですか？
教育実習 事後指導 終了後	問1 「教育実習事後指導」は、あなたの課題解決や教育実践力を高めるための学びに、どのような内容が活かされましたか？ 問2 「教育実習事後指導」では、さらにどのような内容を学びたいと思いますか？ 具体的に記述してください。 問3 「保育実践論」は、あなたの課題解決や教育実践力を高めるための学びに、どのような内容が活かされたと思いますか？ 問4 「保育実践論」では、さらにどのような内容を学びたいと思いますか？ 具体的に記述してください。 問5 上記以外で授業についての要望等があれば、具体的に記述してください。

表3 【教育実習前】問1と【教育実習終了後】問5の質問項目

A	幼稚園教育の基本（役割や目標）	H	保育内容のあり方・保育の展開	O	保育観察力、考察力
B	附属幼稚園の理念や教育の理解	I	行事のあり方や運営	P	保育の評価・振り返り
C	保育者の役割・あり方	J	週案や日案など保育計画の作成の仕方	Q	自身の幼児教育に関する研究心
D	教職員間の連携の仕方	K	指導の仕方や指導技術	R	教育事務・学級事務の進め方
E	学級経営の仕方	L	環境構成の考え方と実際	S	小学校とのつながりや連携
F	幼児理解（発達・内面）	M	遊具・教材の工夫の仕方	T	保護者対応や家庭との連携
G	特別な配慮を要する幼児への対応	N	記録の取り方	U	その他（ ）

2. 結果及び考察

2-1 教育実習以前の授業と教育実習との関連

2-1-1 「幼児教育基礎実習」における連携・共同

3年前期「幼児教育基礎実習」は、幼稚園教育実習につながる事前指導の場としても位置づけられており、授業内容は学部での授業と附属幼稚園での保育参加（3回）で構成されている（表4参照）。

学部授業では、学生は附属幼稚園の教育課程や指導計画、保育案の作成、保育への入り方等教育実習に必要な基本的事項を多岐にわたって学ぶ。附属幼稚園での保育参加は、実習配属クラスで実施し、保育参加後の環境整備やミーティングまで体験する。附属幼稚園でのオリエンテーションや保育参加、ミーティングなどは附属幼稚園教員が担当する。また、保育参加後に学生が提出するレポートは、学部と附属幼稚園とで共有して振り返りに活用し、次の保育参加や教育実習へと学びをつなげる指導をしている。

令和3年度の幼稚園での保育参加は、コロナのため1回目は中止となり、2回目と3回目は午前には附属幼稚園での保育参加、午後はリモート授業を実施した（表5参照）。学生は、遊びの他に製作活動や七夕行事、帰りの会等を観察した。附属幼稚園教員は、昨年度のリモート授業での学びを生かして、学生に学んでほしい子どもの実態や生活の様子などを映像や資料をもとに整理して話すようにした。保育参加の回数は少なくなったが、学生は学部での授業を生かしながら、幼稚園での観察やリモート授業に参加していた。

表4 「幼児教育基礎実習」の授業内容

回	内 容	回	内 容	回	内 容
1	オリエンテーション	6	保育参加（第1回）	11	行事への参加（幼稚園まつり）
2	子ども理解の視点	7	保育参加体験を振り返る①	12	保育参加体験を振り返る③
3	実習生としての心構え	8	保育参加体験を振り返る②	13	今後の実習に向けて
4	保育案について	9	保育参加（第2回）	14	まとめ
5	保育参加について	10	保育参加（第3回）		

表5 「幼児教育基礎実習」：附属幼稚園での内容

①6月30日 保育参観（午前）とリモート（午後）の実施	②7月7日 保育参観（午前）とリモート（午後）の実施
8：20 担任と顔合わせ・朝の環境設定観察・登園風景観察	8：20 朝の保育環境観察・登園風景観察・オリエンテーション
9：05 保育の概要・園環境・コロナ対応等（副園長）	9：30 星組七夕集会観察（遊戯室） 行事の様子を知る
10：15～11：40 保育観察（各学級） この時期の子どもたちの姿や遊びの様子を知る	9：50 好きな遊びの観察（各学級・戸外も積極的に） この時期の子どもたちの姿や遊びの様子を知る
14：20 各学級担任の話（花→風→星の順） この時期の学級の子どもの様子と保育者の願い 年齢による違いや発達を捉える・各担任の思いを知る	11：00 花組七夕集会観察（保育室）
15：20 ミーティング（クラスごとに） 午前中に観察した子ども様子・製作活動について 保育者の思いや援助、環境構成等について知る	13：30 帰りの会の様子をリモート参観（花→風→星で撮影）
16：00 まとめ（学部教員） 学生より感想	14：20 園行事・帰りの会について（副園長） 園行事の在り方、帰りの会の目的や留意点を知る
	14：30 ミーティング（クラスごとに）今日の保育について この時期の学級の子ども様子を保育者の願いを知る
	15：00 教育実習課題等について（幼稚園実習担当教員） 教育実習事前課題の概要を理解する
	16：20 まとめ（学部教員）

2-1-2 「幼児教育基礎実習」における学びと教育実習との関連

学生へのアンケート調査により、教育実習で役に立った「幼児教育基礎実習」の内容について尋ねたところ、学部の授業では、保育案の書き方、保育のエピソードと考察、保育記録のとり方、教育課程の意味や構成、教育課程に記載されているその時期の子どもの実態や援助のポイント、遊びの内容、手遊びや絵本の教材研究などが生かされたとの回答を得た。保育や保育参加に必要な幅広い内容が学生の学びの内容になっており、教育実習に生かされていることが分かる。

附属幼稚園での授業である保育観察及びその後のリモートでは、子どもの様子、遊びの様子、園生活の様子、幼児の実態（その時期の特徴）、環境構成、保育者の思い、保育者のかかわりなどが教育実習の参考になったとの回答を得た。「子どもたちの状況に応じて保育者がどのように関わりを行っているのか具体的にイメージできた」、「この時期の子どもたちにどんな援助をしているのかについて具体的に学ぶことができた」など、具体的な援助に関する記述も目立った。また、実習前の6、7月の遊びの様子の観察と関連付けて、「実習中にも同じ遊びが続いていて遊びの連続性を感じた」、「成長を感じた」、「そのときの子どもの姿と実習中の子どもの姿が結びついて幼児理解の手助けになった」など、子どもの姿を重ねて考えたり捉えたりする記述もあった。保育参観やその後のミーティングでは、実際の様子から具体的に学ぶことと、振り返りを通して理解したり保育者の思いや考えを知ったりすることの重要性が読み取れる。

2-1-3 「幼児教育基礎実習」以外の授業における学びと教育実習との関連

学生へのアンケート調査により、「幼児教育基礎実習」以外で教育実習に最も役立った授業名とその内容を尋ねた。9名中6名が「幼児教育課程論」をあげ、模擬保育や保育案作成の経験が役立ったと回答した。

3年前期「幼児教育課程論」は今年度から開講した授業で、子どもの姿をもとに指導計画を考える体験ができるように、「幼児教育基礎実習」における附属幼稚園での学びと関連させて、表6の課題にも取り組んだ。

表6 「幼児教育課程論」における附属幼稚園での学びと関連させた課題

保育観察をもとにした報告	・配属クラスでの保育観察をもとに、「子どもの実態」「保育の中で大切にされていること」「そのための環境構成・援助」についてまとめ、報告し合う。
保育観察をもとにした模擬保育	・配属クラスで観察した七夕飾りの製作について教材研究・保育案作成を行ない、模擬保育を行う。他の学生は「子ども」として参加する。模擬保育後には、発表者は自己評価を、他の学生は「子どもの側から考えたこと」をコメントカードに記入する。 考える視点：「クラスの子どもの実態」の捉え方、「ねらい」と「内容」、「用意する物・事前の準備等」、「時間」、「予想される子どもの姿」、「環境構成」と「保育者の援助」 ・コメントは授業者が整理して発表者に渡し、今後の実践に役立てられるようにした。

また、その他の「教育実習に最も役立った」と回答した授業名には、「保育内容環境」（環境構成や子どもの動線）、「保育内容言葉」（絵本の読み聞かせ）、「幼児教育方法技術」（視覚教材の使い方や配慮）が挙げられた。

これらのことから、学生は、教育実習を行うにあたり、模擬保育の実施や保育案の作成、教材を用いた実践などの実践的な学びを求めており、保育実践に関する基本的な知識と演習が役立っていると分かった。

2-2 教育実習後の授業と学生の学びとの関連

2-2-1 「教育実習事後指導（1）」における連携

基本実習での学びを次の委託実習へと繋いでいくために、実施している。附属幼稚園で実施する「教育実習事後指導（2）」における部分保育の指導案作成や教材研究、教材作り等を進める指導も行っている（表7参照）。

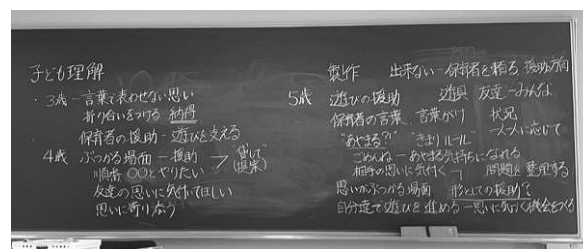


図1 事後指導①での振り返りのテーマと各班での討議の内容と全体でのまとめの様子

表7 「教育実習事後指導(1)」の内容

実施日時	①10月27日(水) 14:30~16:00 ②11月5日(金) 12:50~14:20 ③11月17日(水) 14:30~16:00
<p>(1) 幼稚園実習の「振り返りシート」で各自が実習の中での学びや体験や課題等を振り返り、整理を行った。</p> <p>振り返りシートの主な項目は、保育について、子ども理解・援助について、実習での体験と課題、今後への学びへという内容である。このシートの項目を手掛かりに、「保育について」「子ども理解・援助について」など、それぞれの振り返りを共有したり、共通する振り返りのテーマを取り出したりしながら、各自の学びへと繋ぐための討議を行った。協議については、司会、記録、テーマについての提案者など、学生が役割分担して行った。</p> <p>この振り返りの活動を通して、具体的な子どもの姿に基づいた子ども理解の大切さ、環境構成と保育者の援助、保育の計画の意味など、保育者に必要な専門性としての保育実践について省察し、それぞれに今後に向けての意識や学びへの自覚を深めた。</p>	
<p>(2) 保育の実践の振り返りとしても重要となるエピソードの記述と考察の仕方についての指導を行った。</p> <p>日録を読み返し、実習中の保育場面で特に心に残っている子どもの姿などを見つめ直し、具体的に記述していくエピソードの書き方やその記述をもとに考察することなどを行った。さらに、それぞれが課題レポートとしてまとめたものをもとに、協議を行い、保育実践を具体的に見つめ直しながら子ども理解を深めたり、援助のあり方や環境構成などを検討したりなど、専門性として必要な保育の省察の在り方を体験的に学んでいけるような活動を重ねた。</p>	

表8 授業の内容として残しておきたい学びのポイント(表7の事後指導③の振り返りより)

○エピソードを自分だけでなく、他の人と検討することで自分だけでは気付かなかった新たな発見があり、他の人の視点も入れて考えることの大切さを感じた。
○事例検討により、子どもについての理解、保育者の関わり方、環境構成、場についての考えを深めることができる。
○子どもの体験については、活動、遊びのような顕在的なものと、人間関係などの潜在的なものがある。
○事例検討する際に考えるポイント(子ども、体験的、潜在的、育ち、発達、保育者としての援助、環境構成)
○エピソードの書き方のポイントやエピソードを改めて考察することで気づける子どもたちの育ちや経験があることを学ぶことができた。
○エピソードと考察をもとに子どもの育ちや体験を考える(顕在的なものと潜在的なもの) 自分が実際に見ていなくても、その場面が思い浮かんでくるような記録の仕方について
○一つのエピソードから様々なことが読み取れることがわかったが、書き方や伝え方によって変わると実感した。
○ロールプレイングをしてみると思ったより想像できた。
○エピソードの記録、日付、年齢、天気、主語の明記、やりとりの具体(誰から誰へ)、どのような雰囲気、様子、□□をしたのか。

2-2-2 「教育実習事後指導(1)」における学生の学び

『「教育実習事後指導」は、あなたの課題解決や教育実践力を高めるための学びに、どのような内容が活かされたと思いますか?』という問いに対して、次のような回答が得られた(原文のママ)。

表9 「教育実習事後指導(1)」における学生の学び

○実習を客観的にふりかえり、自分に足りない部分を見つけられた。
○振り返りや考察をすることにより、保育に対する考え方を改めたり、次の保育実践につながる学びがあった。他の人の実践について話を聞くことにより、他年齢の様子が分かるなど実習での学びをより広げることができた。
○幼稚園実習での保育実践をやったままにせず振り返ったり、保育行為を見直して改善点を見出したりする機会となったため、その内容が特に活かされたと考える。
○教育実習でのエピソードや保育案の振り返りを行ったこと。
○事例を振り返ることで課題の再認識と解決の考え方と実践方法を検討すること。
○実習生同士で自分たちの実習時の姿を振り返ったり、レポート課題において反省や自分の考えを文章化する機会を持ったことで、自分の弱みや新たな気づきが得られ深まったと思う。
○全員で実習中のエピソード等を話し合う過程で、他の年齢の子ども様子の知ることが出来たり、保育者として似たような事例を聞くことが出来たので、どう対応するかも含めて学びになったと考える。
○疑問点や実践のなかでわからないことなどを自分とは違う視点をもつ人と話し合うこと。エピソードの考察を改めて書いたこと。

学生にとって、実践を振り返ること（再考すること）、話し合うこと（他者の意見を聞くこと）、文章化すること（考えをまとめること）が大きな学びとなっており、これらを通して保育について改めて考え直していることが分かる。実習中は、その日の保育や課題をこなすことで精一杯なところもあるため、実習後にじっくり振り返る機会をもつことは大変重要である。

2-2-3 「保育実践論」における連携・共同

3年後期「保育実践論」は、今年度より開講した新設科目である。授業の概要と主な内容は、表10の通りである。

表10 「保育実践論」の概要と授業内容

<p>概 要</p>	<p>○はじめに、教育実習における保育案の作成と実践についての報告と討議を行なう。 ○その中で、今後さらに保育者として身につけたい資質・能力や、取り組みたい教材研究の視点を確認する。 ○上記の学習をふまえて教材研究と模擬保育にも取り組み、改善点を助言し合いながら、次の教育実習に向けての課題や目標を明確にしていく。</p>
<p>第1回(10/18)～ 第6回(11/29) 基本実習における実践について振り返る</p>	<p>・学生が一日の保育を担当した「一人保育」での実践について、授業者が記録した写真・映像も一緒に見ながら、保育案や記録をもとに振り返り、考えたことについて報告した。 ・その内容について他の学生もコメントし、他クラス・他学年に配属された学生からも学べるようにした。 (レポート「附属幼稚園副園長先生の講義で学びたいこと」作成)</p>
<p>第7回(12/6) 第8回(12/13) 附属幼稚園副園長先生の講義 (学生のレポートもふまえて)</p>	<p>第7回 1. 環境構成について考える 2. 教材との出会い 3. 保育者の援助 (レポート「副園長先生の講義から学んだこと」「さらに学びたいこと」作成) 第8回 保育者の援助について考える ・実習中の事例をもとに考える ・保育を振り返る：保育記録 ・「公平」と「平等」 ・子どもにとっての意味を考える(当番、グループ活動、帰りの会の時間)等々 (レポート「副園長先生の講義から学んだこと」「委託実習に向けて身につけたいこと」作成) ※レポートの内容には個人差があったが、講義をもとに実習体験を振り返り、「自分は保育の『枝葉』の部分にばかり目を向けていたのではないか」という気づきを記述した学生が多かった。</p>
<p>第9回(12/20) 今後の実習に向けて準備について考える</p>	<p>・副園長先生から学んだ視点もふまえて、帰りの会の実践について振り返り、コメントしあった。 ・2月に附属幼稚園実習配属クラスで手作り教材を活用した実践をすることになったため、授業で計画していた教材研究・模擬保育は、そのための課題を取り上げることにした。 (課題 ・保育の場で活用できる教材とその実践のための保育案を作成する。 ・保育案をもとに、附属幼稚園で教材を活用した保育を実践する。)</p>
<p>第11回(1/6)～ 第13回(1/27)～ 教材研究と保育案についての検討</p>	<p>・「2月に予想される子どもの姿」から「何を大切にしたいか」「そのためにどのような教材を考えたか」を報告し合った。 ・教材研究・保育案レポートも作成して、どのように実践したいかについて話し合った。</p>
<p>第14回(1/24) 第15回(1/31) 模擬保育と討議</p>	<p>・オンライン授業に切り替わったため、模擬保育もオンラインで実施せざるを得なかった。 ・各学生が、絵本等をもとに脚本を考えて作ったペープサート、パネルシアター、スケッチブックシアター等の教材を活用した模擬保育を実施した。模擬保育後には、一人一人の教材と実践について、「よかった点」「改善するとさらに良くなると思った点」をコメントカードに記入して提出した。 ・授業者がコメントをまとめて一人一人へ送付し、そのコメントもふまえて教材研究・保育案レポートについて再検討の上、提出した。授業者が全員分のレポートを印刷・冊子化して配布した。</p>

2-2-4 「保育実践論」における学生の学び

『「保育実践論」は、あなたの課題解決や教育実践力を高めるための学びに、どのような内容が活かされたと思いますか?』という問いに対しては、次のような回答が得られた(原文のママ)。

表 11 「保育実践論」における学生の学び

○異年齢から見た別の対応や解決方法など、別の角度からの意見をいただき、それが取り入れられた。
○動画や写真などを通して具体的にその場面を想定して保育について考えることにより理論と実践をつなげることができた。授業の中で振り返りをしてもう一度実践をすることができたため、反省を活かし自分の課題を見つけることができた。
○自分や他者が実際に保育現場で実践をした具体的な内容から保育者のあり方、援助等の視点を学ぶことができたため、実感を持って学びを得られた点がとても活きたと思う。
○保育中の動画や写真を見ながら実習の振り返りを行ったこと。教材研究・模擬保育を行ったこと。
○実践の振り返りと反省をし、他者から意見やアドバイスをもらえたこと。
○実際にかかわった子どもたちの実態から、教材や題材を選び、子どもの前で実践することを想定して脚本を考えたり教材をつくりかえたりしたことで、実践力につながる学びを深めることができたと思う。副園長先生の講義があったことも、学びが深まる貴重な時間だった。
○実習中の学びや反省を振り返りながら、自分一人だけではなく様々な視点から意見交換をすることが出来たところだと考える。
○教材研究レポートの作成。教材作り。実践動画の振り返り。

2-2-5 「教育実習事後指導（2）」における連携・共同

3年生の終了時期である2月上旬には、附属幼稚園における「教育実習事後指導（2）」を計画した。「教育実習事後指導（1）」や「保育実践論」での教育実習の振り返りや教材研究で学んだことを基に、作成した教材を使って実践する場を設け、今後につなげていくためのものである。

計画した内容は表12の通りであったが、今年度はコロナのため中止とした。オンラインでの実施も考えられたが、子どもの前で実演してこそ意味があるため見送ることにした。学生は実現できなかったこと残念に思っていたが、「保育実践論」で模擬保育を行い、互いに見合っコメントを得ることで補完できた。

表 12 「教育実習事後指導（2）」で計画した指導内容

日時	場所	指導内容（計画）
2/4	附属幼稚園 (実践者)	○「教育実習事後指導(1)」及び「保育実践論」で振り返った幼児の実態をもとに、担当したクラスにふさわしい教材（パネルシアター・ペープサート等）を選定し、作成する。
2/7	オンライン	○「保育実践論」で作成した保育案レポートをもとに、作成した教材を使って附属幼稚園で実践する。（各クラス1日一人）
2/8	（観察者）	○実践者以外は、オンラインで保育様子(教材を演じる様子)を観察する。 ○実践後、担任教諭や観察者と共に振り返る。(演じ方・子どもの反応・題材・教材特性など)

2-3 「教育実習」における学生の学び

2-3-1 アンケートから見る学生の学びのニーズとその実態

前述【教育実習前】アンケート調査の問1『教育実習で学びたいこと（身につけたいこと、深く考えたいこと、力をつけたいこと）』、及び【教育実習終了後】アンケート調査の問5『教育実習で学んだこと（身につけたこと、深く考えたこと、力つけたこと）』について、回答順位を追って点数化した。表13は、上位5番目までの項目とそれを選択した人数である。【教育実習前】と【教育実習終了後】で共通する項目を太字で示した。

【教育実習前】アンケート調査では、「幼児理解（発達・内面）」「環境構成の考え方と実際」「保育者の役割・あり方」「週案や日案など保育計画の作成の仕方」「幼稚園教育の基本（役割や目標）」「保育内容のあり方・保育の展開」の順であり、【教育実習終了後】アンケート調査では、「環境構成の考え方と実際」「幼児理解（発達・内面）」「週案や日案など保育計画の作成の仕方」「保育者の役割・あり方」「教職員間の連携の仕方」の順であった。

上位4番目までの項目は、順位は異なるものの共通していた。これらの項目は学生にとって特に教育実習で学びたいことであり、保育実践力を高めるための基礎となる事項といえる。

表 13 教育実習で「学びたいこと」と「学んだこと」

教育実習前：「教育実習で学びたいこと」			教育実習終了後：「教育実習で学んだこと」		
項 目	合計	人数	項 目	合計	人数
幼児理解（発達・内面）	28	5	環境構成の考え方と実際	25	7
環境構成の考え方と実際	18	7	幼児理解（発達・内面）	22	6
保育者の役割・あり方	17	5	週案や日案などの保育計画の作成の仕方	21	8
週案や日案など保育計画の作成の仕方	16	6	保育者の役割・あり方	20	6
幼稚園教育の基本（役割や目標）	10	2	教職員間の連携の仕方	11	3
保育内容のあり方・保育の展開	10	3			

教育実習前と教育実習終了後の合計の差が＋5以上の項目は、「教職員間の連携の仕方」「環境構成の考え方と実際」「行事のあり方や運営」「週案や日案など保育計画の作成の仕方」の4項目であった。

「教職員間の連携の仕方」と「行事のあり方や運営」は、教育実習前には挙げられていなかったが、教育実習の経験を通して、実習生同士の連携も含め教職員間の連携の大切さを実感したことがうかがえる。また、実習中にお月見会や運動会などの行事があったため、「行事のあり方や運営」が挙げられたと考えられる。

教育実習前と教育実習終了後の合計の差が－5以上の項目は、「特別な配慮を要する幼児への対応」「保育内容のあり方・保育の展開」「幼稚園教育の基本（役割や目標）」「指導の仕方や指導技術」「記録の取り方」「保護者対応や家庭との連携」の6項目であった。

これらの項目が重要でないというわけではなく、5つ選択という制限もあったことから、いずれも重要と認識しつつも、実習経験からはそれ以上に重要と感じられる項目があったと推測される。

表 14 教育実習前と教育実習終了後の合計の差

差が＋5以上の項目				差が－5以上の項目			
項 目	実習前	実習後	後－前	項 目	実習前	実習後	後－前
	合計	合計	差		合計	合計	差
教職員間の連携の仕方	0	11	11	特別な配慮を要する幼児への対応	9	1	-8
環境構成の考え方と実際	18	25	7	保育内容のあり方・保育の展開	10	2	-8
行事のあり方や運営	0	6	6	幼稚園教育の基本（役割や目標）	10	5	-5
週案や日案など 保育計画の作成の仕方	16	21	5	指導の仕方や指導技術	9	4	-5
				記録の取り方	5	0	-5
				保護者対応や家庭との連携	5	0	-5

以上のことから、学生は、教育実習を通して、「幼児理解（発達・内面）」「環境構成の考え方と実際」「保育者の役割・あり方」「週案や日案など保育計画の作成の仕方」「幼稚園教育の基本（役割や目標）」「保育内容のあり方・保育の展開」などを主に学びたいと考え、結果的にそれを学んでいるということが言える。元来、課題意識がないことを学んだと認識することはできない。課題意識があるからこそ学びの実感がもてるのだと考えると、実習前にどのような課題をもっているか、何を大切だと捉えているのかということが重要になってくる。その意味では、学生が「幼児理解（発達・内面）」「環境構成の考え方と実際」「保育者の役割・あり方」「週案や日案など保育計画の作成の仕方」などに重点を置いているということは、保育の基本的な視点をもっているという意味でもあり、望ましい傾向であると考えられる。

3. まとめ

3-1 本研究の成果

3-1-1 授業における学部・附属間での連携・共同

本研究では、学生の教育実践力を高めるために、教育実習と教育実習前後の授業及び指導とに一層系統性と関連性をもたせることを考えて、学部・附属間で連携・共同を図りながら授業を計画・実施してきた。その結果、教育実習前後の授業を通して学生の学びを深めるには、次のようなことが大切であると分かった。

①学部授業では、保育実践を行うための基本的な事項を学んだ後に附属幼稚園において保育を体験し、実践や実体験をもとに、振り返りや考察を繰り返して行う。

学生自身が実践したことや体験したことについて、様々な角度から考えたり、他者の考えを参考にしたり、振り返ったりして、再考することが大切である。

②附属幼稚園教員が学部の授業に適宜参画して、現場の様子を伝える。

現場の保育者が保育を語ることが学部授業の裏付けとなって、学生は、より具体的に保育内容や幼児理解、援助等について学ぶことができる。特に実際に教育実習で担当する（した）子どもについての具体的な語りは、学生の関心度を高め、結果的に学びが深まることが期待できる。

③附属幼稚園教員は、学部授業への参画にあたり、学生に伝える内容等について事前に系統立てて考え、綿密な準備をおこなう。幼児の実態や発達に応じた映像や資料などの活用などにより、学生の学びの可能性を拡げることができる。

④コロナ禍や時間的都合などにより保育参加等ができない場合でも、リモート授業により園の様子を見たり附属幼稚園教員の話の聞いたりするなどの授業体制を構築する。保育中継を行ったり、映像や資料を見せながら話したりするなどの工夫により、間接的であっても子どもの姿や保育の実際に触れることができ、学生の学びがより具体的に深まる。

⑤学生同士の話し合いや学び合いを大切にする。

アンケート調査の回答から、「話し合い」「他者の意見」「他面的な見方」などに関する回答が多くあり、学生が自分だけでは気付かないことを他の学生から多く学んでいることや、それを望んでいることが分かった。どの授業においても、学生同士が意見や考えを述べたり尋ねたりする機会を設けて思考を促すことが重要である。

3-1-2 学部・附属の連携・共同が教員にもたらす効果

①学部授業での学生の学びの構成について、附属幼稚園教員は詳細を知らない部分もあったが、今回の連携・共同により、実習前後の学部授業の構成を理解できたとともに、その一部に参画することができた。今後より一層連携・共同することで、学生にとってより系統性のある学びが期待できる。

②リモート授業では、幼児教育教室教員と附属幼稚園教員の双方が参加しやすくなり、学生の学びの内容を共有し合うことができた。今後、リモート授業に限らず、学生の学びの内容をさらに共有し合うことで、より効果的な指導が可能となると考えられる。

3-2 今後の課題

本研究では、学生の保育実践力に関する学びのニーズを調査し、それに応じることも併せて考えながら授業構想をする予定であった。学生へのアンケート調査により、学生が何を学びたいと思っているかや、どんな学びを活用しているかを調査したが、「今後さらに学びたいと思っていること」については、調査したにもかかわらず、その結果を十分に生かした授業を実践するまでには至らなかった。アンケート調査の結果を学部・附属教員全体で共有する時期が遅かったためである。

アンケート調査の回答をみると、『「教育実習事後指導」や「保育実践論」で、今後さらにどのような内容を学びたいと思うか』という問いに対して、「自分の振り返りを共有して協議をしたい」「教育実践力や課題解決の総まとめ」「エピソードを方法や環境だけでなく、理由を含めて深く考察したい」「実習中の保育案について全員で共有しながら考えたい」「自己課題は自覚できたが、それを克服するための方策が浮かばないので、課題解決のための取り組み例を知りたい」「附属幼稚園での実践を通して、1年間の子どもの成長を学びたい」等の多くの意見があった。これらを早い段階で共有していれば、実現できたこともあったと思われる。

る。今後は、アンケート調査結果を生かして、さらに学生のニーズに応じることを考えていきたい。

おわりに

「子どものことは子どものいる場所で学ぶ」をモットーとしている幼児教育教室にとって、コロナ禍や学部と附属幼稚園とが離れているという距離的問題は、その根幹を揺るがすものである。しかしながら、保育参加等で「実践・体験」する部分と、それを振り返り、保育や子どもについて「考察」する部分とを分けて考えることで、リモート授業の活用や附属幼稚園教員が授業へ参画することをより意義あることとして位置づけることができた。学部授業と附属幼稚園での実践については、お互いが両者の内容をよく知り、共有し、継続・発展させることが学生の深い学びにつながっていくことは自明の理である。附属幼稚園教員が学部での授業内容を把握しつつ学生とかかわったり、学部授業の中に附属幼稚園教員が実践者ならではの保育内容を語る機会を積極的に取り入れたりしながら学生の学びを共有し、今後さらに連携・共同を図っていきたい。

引用文献

- 1) 大森洋子・高橋千恵・中原早苗・尾川真子・高田和宜・松村佳枝・富士本武明・川崎徳子・中島寿子・白石敏行：学生の学びを深めるための現場を活用したリモート授業の在り方，山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要，第52号，53-62，2021.

参考文献

- 磯村朋世・大森洋子・川崎徳子・實松瑞栄・荘司泰弘・高田和宜・友定啓子・中尾佳代・永久眞知子・中村万紀子：教育実習内容の変遷(2)，山口大学教育学部 学部・附属教育実践研究紀要，第1号，121-136，2002.
- 白石敏行：幼稚園教諭の資質向上のためのカリキュラムに関する研究，山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要，第18号，87-96，2004.
- 民秋言・安藤和彦・米谷光弘・上月素子・大森弘子（編著）：幼稚園実習（新版），北大路書房，2020.
- 中島寿子・川崎徳子・白石敏行・村上清文・中村万紀子・大森洋子・高田和宜・志賀直美・武宮道子・辻村明日香・大庭美雪・中野朋子・鶴永里恵・中尾知美：一人ひとりの学生に応じた教員養成のあり方について考える－保育実践について省察する力を中心に－ 山口大学教育学部 学部・附属教育実践研究紀要，第14号，45-56，2015.
- 保育教諭養成課程研究会：幼稚園教諭・保育教諭のための研修ガイドⅡ－養成から現職への学びの連続性を踏まえた新規採用教員研修－，2016.
- 文部科学省：幼稚園教育要領解説，フレーベル館，2018.
- 文部科学省：幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開，チャイルド社，2021.